

2月「クローバー」だより（全4ページ）



* 「子どもが動き始めるまで待ちましょう」だけでは、不登校は改善しません！

長い期間、学校を休んでいると、いろいろな心配事が、・・・

学力保証や高校への進路に、親は、どう対応していくとよいか？

◆長い期間、学校を休んでいると、学力面が心配に・・・

長い期間、学校を休んでいると、学習できていない内容があり、学力面が心配です。

親は、焦ります。

しかし、心の中に、不安や葛藤を抱えている状態では、・・・

子どもは、進んで学習しようという気持ちには、なかなかたえません。

「手につかない」と言った方がよいかも知れません。



大人でも、例えば、・・・

体調をくずした子どもが家で休んでいたら心配で、仕事に出かけようとする気持ちが揺れます。会社へ行っても、仕事に、なかなか力が入りません。

このような心の働きを、心理学的に述べると、・・・

子どもも、大人も、「安心・安全」が十分に感じられない環境下では、・・・

自己を高めようとしたり、自分の力を発揮しようとしたりする意欲は低下し、その行動にブレーキがかかってしまう・・・ということになります。(注1)

つまり、**学習しようとする意欲は低下し、学習しようとする行動にブレーキがかかる**訳です。

◆学力を保証するためには、・・・学力を保証することを優先しない！

では、学力を保障するために、親は、どのように対応していけばいいのでしょうか。



ここで、最も重要なことは、・・・

学力を保証することを優先するのではなく、

まず、子どもが意欲をもって学習をしようとする「心理的環境づくり」に、注力することです。

その「心理的環境づくり」とは、先に述べたように・・・

「子どもが、「安心・安全」を十分に感じられる環境づくり」のことを指します。

そして、そのような環境づくりを積み上げ、・・・

★子どもが、心の安定、心の元気を回復してきてからが、子どもが学習と向き合う時となります。

遠回りになるようですが、・・・

このような手順にそっていくことが、子どもに着実な学習保証をしていくためには不可欠です。

もし、メンタル面より学習面を優先していると、・・・

子どもの心が不安定になったり、不登校が悪化するケースも出てくるので、注意が必要です！

★なお、子どもが感じる「**安心・安全**」を高める、親の関わり方については、・・・

4月「クローバーだより」に具体例を紹介していますので、参考にしてください。

→→→ https://counseling-clover.jp/pdf/clover-dayori_202204.pdf

◆遅れていた学習を取り戻すのに、適した学習方法は、・・・？

子どもが、心の安定、心の元気を回復し、学習への意欲が出てきたとします。

では、そのとき、・・・

遅れていた学習を取り戻すには、どのような方法が考えられるでしょう？

真っ先に思い浮かぶのが、**学習塾**だと思います。

しかし、子どもは学習塾をいやがります。学校の友だちに会う可能性があるからです。

人が多く集まる所へ行くことに不安や緊張を感じるというのも、学習塾をいやがる理由です。

また、学習塾には、独自のカリキュラムがあり、塾の教材を活用して学習を進めています。

学習が遅れている子どもにとっては、学校の教材もあり、塾の教材もありで、・・・

それだけでも、心理的な負担がかかってしまいます。理解も混乱します。



ですから、私は、**家庭教師**をお薦めしています。

教科書の内容にそって、ていねいな学習指導をしてもらいます。

学習内容は欲張ることなく、徹底して、「基礎・基本」に力を入れるのがベターです。

「分かること」「できること」が、子どもの喜びや自信につながると、いいですね。

★余談になりますが、**親が子どもの学習指導をすることには、私は、かなり否定的です。**

子どもへの心理的なデメリットが、少なくないからです。（詳細略）

◆中学校の出席日数は、高校入試に影響するのか、・・・？

長い期間、学校を休んでいると、高校への進路も心配です。

特に、中3になると高校入試があり、学力面に加え、**出席日数**のことも心配になってきます。

保護者さんの中には、「**出席日数が少ないと、高校入試で不利になるのでは、・・・？**」

と心配されている方がいらっしゃるのでは・・・と思います。



しかし、鳥取県の場合、「令和5年度鳥取県立高等学校入学者選抜実施要項」に、「**選抜に当たっては、・・・中学校における長期欠席の生徒であることをもって、不利益な扱いをしてはならない**」と記されています。(注2)

念のため、鳥取県教育委員会の担当課にも、直接、確認したところ、・・・
「出席日数により、不利益な扱いをされることはありません」との回答を得ました。

(注3)

ところが、中学校の先生の中には、子どもや保護者に・・・

「**高校入試のことを考えると、出席日数は、ある程度あった方がいいと思います。**」

・・・などとお話をされているケースがあると、複数の保護者さんから伺っています。

このようなチグハグな情報が入り混じると、子どもや保護者は、当惑してしまいますね。

とは言っても、・・・**進むべき方向性は、はっきりしています。**

すでに、令和5年度の高校入学者選抜実施要項が公表されている中において、
また、子どもの心理状況は、一人ひとり様々な状況にある中で、かつ変化する中で、
出席日数が多いとか少ないとかいったことに、心を揺さぶっているよりも、・・・

「**子どもがムリのないように登校し、自分のペースで学びを進め、自分にあった高校を選択していく歩みを、親子で着実に進めていく**」ことの方が、もっと大切だと思います。

◆どのような高校を選択するとよいのか・・・？

最後に、**高校への進路**について、考えてみましょう。



子どもさんは、どのような基準で、志望校を選択していくのでしょうか。

偏差値や高校名で、あるいは、世間体で、志望校を選択しようとしていることはありませんか。

私は、**進路選択で最も重要なことは、・・・**

3年間楽しんで登校でき、自分の力を伸ばしていける高校なのかどうかを、よく見定めることだと思います。

高校は、全日制だけではありません。通信制もあれば、定時制もあります。

高校によっては、定期的にオープンキャンパスを開催しているところもあります。

いろいろな学校情報を仕入れ、よりよい進路選択をしてほしいと思います。

そして、親は、・・・

そのような子どもの気持ちや考えを広い心で受け止め、支えてあげていただきたいと思います。

文責 西村明倫 (「クローバー」代表)

公益社団法人日本心理学会認定心理士

メンタル心理カウンセラー

一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト

【参考文献・資料等】

注1 「マズローの心理学」 フランク・ゴープル 1993.4.20 産業大学出版部

- ・アメリカの心理学者マズローは、その「欲求階層論」の中で、・・・
「安心・安全」が感じられなくなると、人の行動に、ブレーキがかかることを述べています。
その代表例は、東京オリンピックです。
コロナ感染拡大によって、「安心・安全」が感じられなくなると、オリンピックを観戦しようとする人の動きは、止まってしまいました。
- ・イギリスの精神科医J・ボウルヴィも、「愛着（アタッチメント）理論」の中で、
人は「安心・安全」が感じられなくなると、自らの世界を広げていこうとする主体的な行動（探索行動）が起きなくなってしまうことを述べています。
例えば、いじめを受けている子どもは、学校生活の中で「安心・安全」を感じるができないので、学校へ行こうとする探索行動が起きなくなってしまう。

注2 「令和5年度鳥取県立高等学校入学者選抜実施要項」 鳥取県教育委員会 HP

- ・実施要項（2）の「選抜に当たっての配慮事項」には、・・・
「選抜にあたっては、過年度中学校卒業生、身体等に障害のある生徒、日本語指導が必要な海外帰国生徒、外国籍生徒及び中学校における長期欠席であることをもって、不利益な扱いをしてはならない。」と記載されています。
→→→ <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1263797/R5honbun.pdf>
- ・各都道府県の、令和5年度の「高等学校入学者選抜実施要項」は、すでに公表されています。
確認したいことがある方は、各都道府県の教育委員会HPで検索してみてください。
教育委員会に、電話で問い合わせをしてみるのも方法です。その際、ご自身のお名前や中学校名を伝える必要はありません。匿名でOKです。

注3 同上

- ・実施要項の中の「不利益な扱い」についての定義は、・・・不明確です。
「長期欠席であることをもって「不利益な扱い」をしてはならない」と記載されていますが、
「長期欠席であることをもって「合否判定の資料」にしてはならない」とは記載されていません。
つまり、・・・
「出席日数」が、100%、「合議判定の資料」にならないとは、・・・書いてない訳です。